

2010年7月29日

【格付維持/方向性変更】 レバノン共和国

外貨建て発行体格付： B+ [格付の方向性：安定的 → ポジティブ]
 外貨建て短期債務： b

格付投資情報センター(R&I)は上記の格付を公表しました。

【格付理由】

2009年11月の「挙国一致内閣」の発足で、2005年以降の政局混迷にひとまず終止符が打たれた。建設投資が拡大しているほか、観光業や貿易業なども活況で、経済は堅調に推移している。国際通貨基金(IMF)によると、実質国内総生産(GDP)の伸び率は、2008年の9.3%、2009年の9.0%に続いて、2010年も9%に達する見通し。ガソリン税の上限撤廃や燃料税の導入なども相まって税収は増加し、財政の悪化に歯止めがかかっている。

こうした中で、発行体格付をB+にとどめたのは、「挙国一致内閣」の政権基盤が十分強固なものであるとの判断には時期尚早と見ているためだ。新政権はシーア派民兵組織ヒズボラを含む全ての政党の利害に配慮が欠かせず、合意形成に時間がかかる。近年まで続いた民族・宗教間の緊張を乗り越えることは容易ではなく、名実ともに求心力の高い政権として定着するかどうか、今後しばらく政権運営の行方を見守っていく必要がある。

加えて、豊富な預金を持つ銀行部門が、2009年末にGDPの148%に達した政府債務の借り換えを円滑にしている面は評価できるものの、居住者預金ほど滞留しない非居住者預金に財政ファイナンスの多くを依存する構造は、安定的とは言い難い。預金が流出に転じるリスクは常に存在するが、政治的安定の恒久化こそがそのリスクの極小化につながると考えている。

格付の方向性をポジティブに変更したのは、政治・経済情勢の好転を背景に、新政権が機能し始め、財政健全化に取り組みだしていることを考慮している。6月末に2010年度政府予算案が提出され、5年ぶりに議会で承認される運びとなった。増税案のうち注目度の高い付加価値税こそ見送られたものの、預金の利子課税や不動産登録税の引き上げなどが盛り込まれた。民間資本を活用して発電能力の大幅な拡張ならびに送電・配電効率の向上をめざす案も可決された。

もっとも、2010年の財政赤字はなお対GDP比で10%台と大きく、狭い徴税基盤、重い利払い費負担、国営電力会社への巨額な移転金などの問題も残っており、構造的な財政赤字の縮小にメドが立っていない。政治・経済情勢の安定が続き、予算が滞りなく執行されて、財政健全化も進みだすようなら、格上げが視野に入ってくる。

当該格付に適用した主要な格付方法は「ソブリンの格付の考え方」である。この格付方法は、格付を行うにあたり考慮した他の格付方法とともに下記ウェブサイトに掲載している。

<http://www.r-i.co.jp/jpn/cfp/about/methodology/index.html>

【格付対象】

発行者：レバノン共和国

名称	格付	格付の方向性
外貨建て発行体格付	B+ (維持)	安定的 → ポジティブ
外貨建て短期債務	b (維持)	—

☆発行体格付は、発行体が負うすべての金融債務についての総合的な債務履行能力に対するR&Iの意見である。発行体格付は、原則としてすべての発行体に付与する。個々の債務等の格付は、契約の内容や回収の可能性などを反映し、発行体格付を下回る、または上回ることがある。